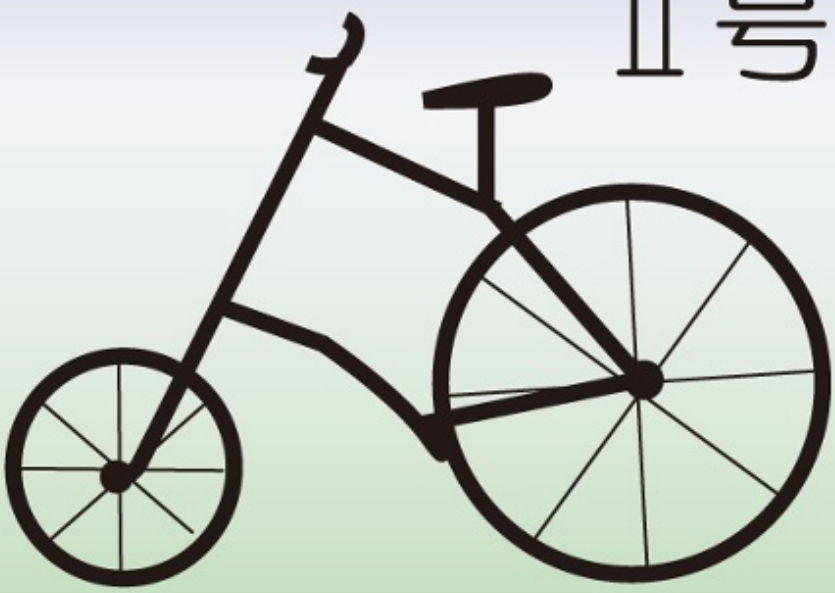
さっぽろ
自転車散歩

Ⅱ号



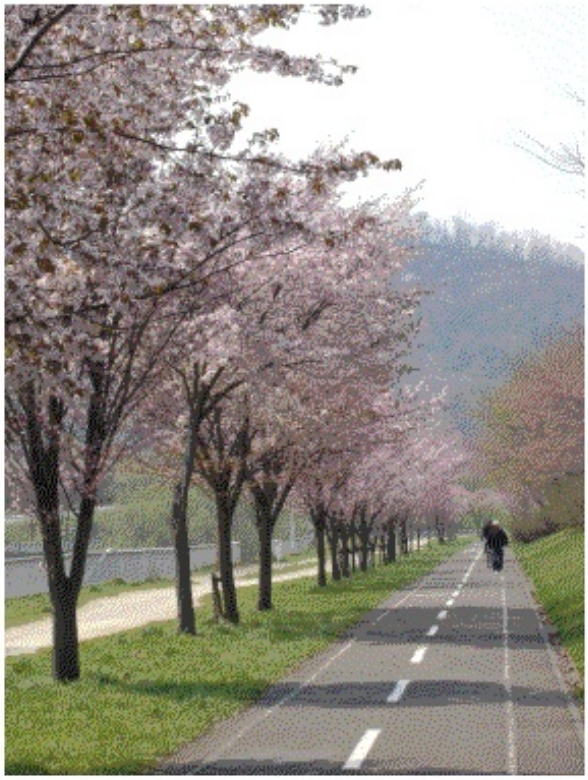
きたの　やっさん

・琴似発寒川お花見サイクリング

走行距離　２３ km

桜の季節にぜひ走りたいコースである。

ただし、行き帰りともほぼ同じ道と単調である。その代わり、コースで往き帰りと二度お花見を楽しむことができる。



大通りを西に向かう。3km ほどで円山公園の手前まに到着。

ひろい通りの環状通りを右折、次に北一条通りを左折すると道はやがて円山公園、北海道神宮の苑域に沿った上り坂になる。ちょっと、鳥居前でバイクをとめて無事故の安全を祈ろう。この北一条宮の沢通りは、結構、登り下りのある道路だ。7km 弱で橋を渡る。今日のコースである琴似発寒川に架かる橋である。左手に心臓血管センター・北海道大野病院の建物が見えてくる。その建物手前がサイ

クリングロードのスタート地点である。ベンチもあるのでここでひと休み。ここは近辺の桜の名所になっている。コースに沿って桜並木が続き、満開の時期は見事な眺めである。そぞろ歩きの人も多いので入り口近くは徐行して通りたい。コースはよく整備されており快適な走行が楽しめる。ここも手稲山に向かってのゆるい登りである。しばらくして西野右股通りに出る。平和の滝の案内板がある。

更に上流を辿る。桜の時期は未だ、札幌では雪捨て場の山は健在である。

夏場はマムシに注意の看板もある。道は少々、荒れ気味になる。人家も少なくなったところで行き止まりとなる。11.5km の地点である。そこに架かった橋から下流を見下ろしながら休憩。後は来た道を引き返すだけだ。そして下流近くで、二度目のお花見と洒落るわけである。

スピードを出したい向きには適当なダウンヒルを味わうことができる。

・　琴似発寒・発寒・新川　お花見コース

走行距離　　２１ km

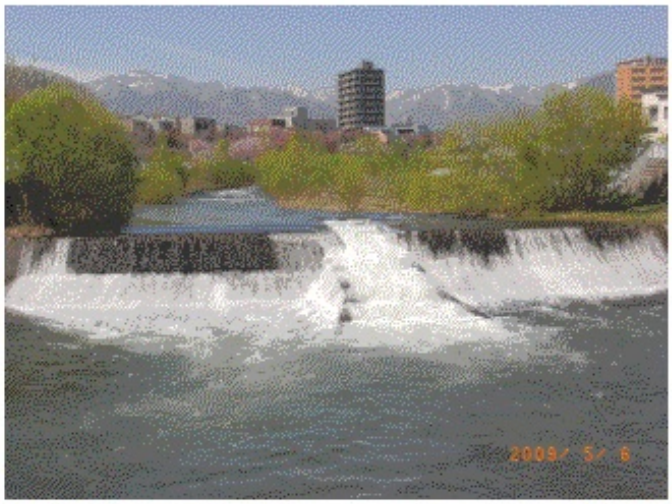
琴似発寒川お花見コースと同様、円山公園方面に向かう。

今回は公園の手前で折れて、山の手通りを北西に向かう。

やはり、アップダウンのある道である。やがて橋が見えてくる琴似発寒川に架かる冨茂登橋である。ここまで 6.5km 程度である。

手前の遊歩道からバイクを乗り入れる。ここから下流は、発寒河畔公園と呼ばれ花の名所である。シーズンは多くの人で賑わう。

発寒河畔公園



琴似発寒川

公園は３２０本の梅や６０本のエゾヤマザクラ、ライラックなどのお花見が楽しめるが、タイミングを合わせて訪れるのも結構難しいものがある。

桜や梅の並木に沿って河畔の道を北に向かう。

パンの博物館を右手に見て北一条通りを横断し、二十四軒手稲通りも横断すると次は桑園発寒通りに突き当たるが、そこで道は終わり、階段を上って通りを左折し、西税務署の裏側の JR の踏切を横断する。

ちょっと、判りにくい道なので注意しながら走ろう。踏切を渡ると鉄工団地通りである。横断して右に行く。橋を渡る。先ほどまで走っていた琴似発寒川に戻ったのである。川の土手に沿って細い道がある。

農試公園入り口である。

しばらく公園の縁に沿って走る。次の橋のところで農試公園に滑り込む。

農試公園はオールシーズン楽しめる運動公園のようだが、小休止にはもってこいの場所である。ここまで約 9.5km

農試公園脇を走る

満開の花を愛でる

桜の時期は農試公園も美しいが、八重桜が多いようなので発寒河畔公園とは時期がずれる。公園はどちらかというと子ども向けの施設が多いので一休みしたら、下流に向かって走りだそう。鮭のシーズンには遡上する姿を見にくる人もいるようだが、今はほとんど人影はない。サイクリングロードというより堤防のメンテナンス道路というほうが、ふさわしいかも知れない。

道はやがて広い道路に突き当たる。下手稲通りである。直交して高速道路が見える。下手稲通りに出て向こう側に渡ろう。渡ったら橋のたもとから、又、堤防沿いの専用道？が続く。左側は人家、右は琴似発寒川の流れである。やがて行く手、右側に車の流れが見える。新川に沿った新川通りである。少し先で二つの川は合流する。合流するまでは新川は琴似川と言うらしい。合流地点から川の名前は新川となるそうで

天狗橋の浮き彫り

新川の桜並木？

ある。

この新川、もともとは 120 年前の明治年間に「琴似川小樽内川大排水」として開削された運河。石狩川の氾濫を防ぐことと低湿地の水抜き、舟運を目的としていたとのこと。

だから、川筋はあくまでも真っ直ぐである。

しかし、百年も経った今は、野趣あふれる川に見える。という訳で、今度は新川沿いに銀輪を運ぶことになる。

堤下には遊歩道が設けられており手稲前田まで続いているが、今回は、次の広い道路である追分通りで引き返すことにする。

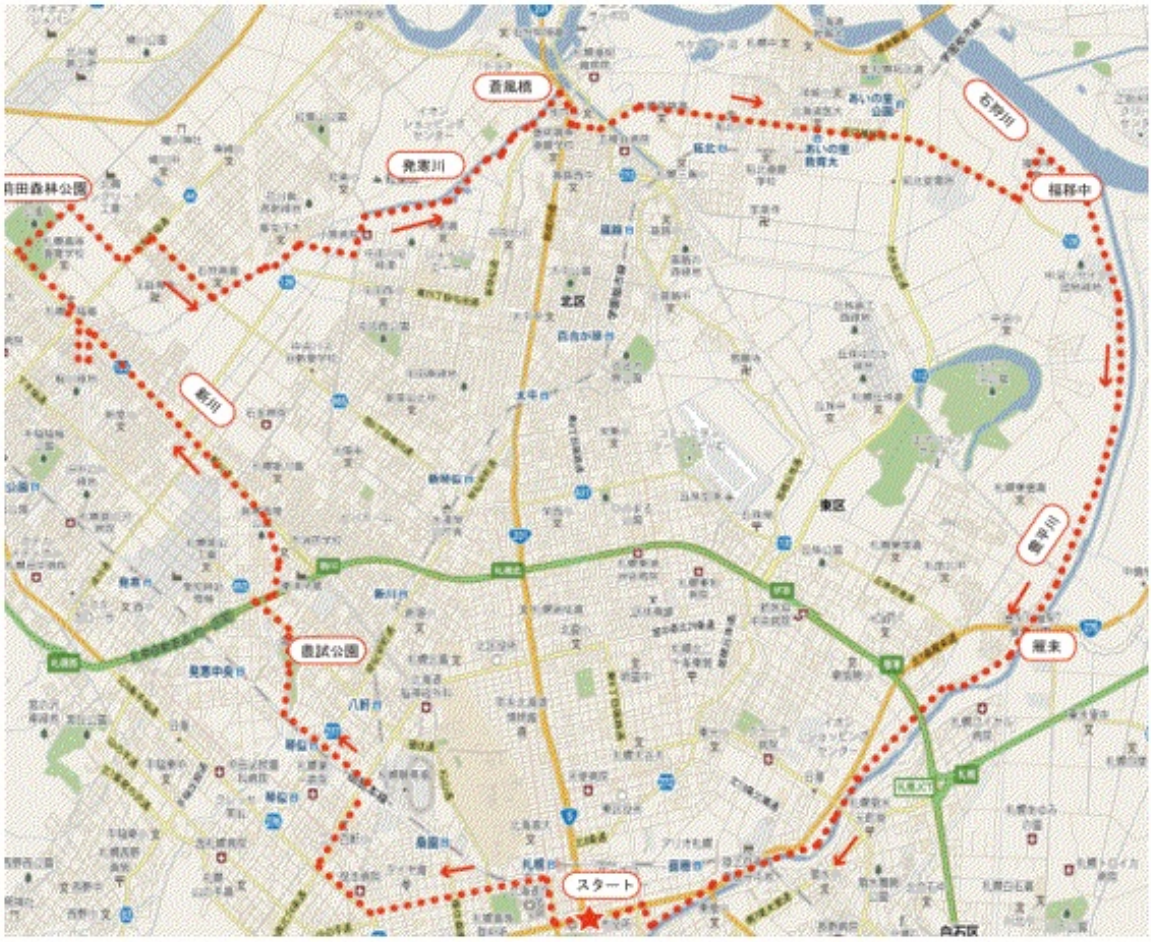
目印は天狗橋。ここまで 10km 強。

写真のように天狗の浮き彫りがある洒落た橋だ。明治の昔、請負人の男の鼻が高かったのでとの由来の銘板もあるユニークな橋であるが、周りは至って殺風景。 ここから新川・琴似川沿いに戻る。実はここに全長 10.5km の桜並木があるのだ。訪れた時は発寒付近は花盛りであったが、こちらはほとんど終わっていた。当然、ひと気もない。住民の手によって植樹されたというが、未だ若木である。見事な桜並木になるには、あと何年かかるだろうか。川沿いの専用道、河畔の遊歩道とあるが、道を選びながら帰途に就く。やがて川は暗渠に変わり消滅する。その少し先が北大の北端に当たる。北 18 条通り通って北大構内を走り帰途につくのもよいかも知れない。

・札幌川巡りコース

琴似発寒川・新川・発寒川・軽川・琴似川・石狩川・豊平川

走行距離　５２ km



札幌を川沿いに一周するようなコースである。

ポタリング向きの道は川沿いに設けられているからだ。川を繋いでコースを走ってみた。札幌というイメージは乾いた平坦な土地というイメージを持ちがちだが、明治以降の先人が苦労して治水に努力したお陰で今日の姿があるようだ。石狩川の氾濫で大水害（大正年間）が発生したり、豊平川の北側には低湿地が広く拡がっていたようだ。先人が川筋を変えたり、運河を掘削して今日の姿になったという。

コースは前回の道と途中まで重複する。

前回同様、琴似発寒川の上流から辿るコースもあるが、花見シーズン以外は遠回りになるので、まずは農試公園で琴似発寒川と出会うコースを辿ろう。例によって、大通りを西に向かい走る。やがて円山公園近く、環状通りの交差点で右折する。角にケンタッキーフライドチキンのあるところだ。道なりに 2km ばかり進むと右側に札幌中央市場が見えてくる。トラックの出入りの激しい道路に気を遣いながら、JR 高架をくぐる。ここから左折して琴似駅方向に向かう。狭い車道なので同じく狭い歩道を 1.7km ほど行くと、琴似発寒川に出会う。例の農試公園に至る堤防上の道の入り口である。

農試公園に向かう道

農試公園でひと休み。8km くらいの道のりである。

堤防上の道は前章で書いたとおり新川通りと平行して走るようになる。今回は天狗橋付近からスロープを下りて河畔に出てみよう。

よく整備された遊歩道が続いている。しかし、ほとんど人影を見たことがない。

河畔休憩所から新川を眺める

住宅街が間近にあるが散歩路としてはあまり快適でないからか。川岸は雑草が生い茂り、川辺で遊ぶ場所もないようだ。2km ほど進み階段のあるところで自転車を押し上げて堤防上の道路に戻る。手稲山から発する新川に合流する軽川が行く手を阻んでいるからである。

軽川付近で手稲山を望む

前田森林公園

もっとも、河畔に下りないで堤防上を走るコースもあるのだが、せっかくの遊歩道を利用しない手はない。堤防上を走り、大きく右折して軽川に架かる橋を渡る。ここまで来ると手稲山が間近に見える。残雪の手稲と満開の桜に見とれる。そこからまた、新川に沿って走ると、また橋が見えてくる。新川に架かる橋である。

橋を渡り左折して前田森林公園に向かう。この公園は 1987 年に誕生した。何もない所に緑化を志し 10 年間掛けて作り上げたそうだ。運河（カナル）とポプラ並木そして正面に見える手稲山の展望が名物だ。突き当たりに展望ラウンジがあるので、一息つきたい場所だ。

ここまで約 17km。

広い園内なので全貌を知るには自転車でも結構走り回ることになりそうだ。花はサクラ・ラベンダー・フジが名物のようだが、藤棚が印象的だった。

公園は公道を挟んで２ブロックに分かれている。出入り口４から公道に出て左折、次の交差点で右折して、広い石狩手稲通りに出る。

少し進むと左手にツルハドラックが見えてくる。そこの交差点を右折する。西 5 丁目樽川通である。ここから花川の町に入る。

1km ほど行くと、ちょっと気づきにくいが、左に入る小道がある。

雑草が生い茂った見捨てられたような路である。この路も札幌市の立派なサイクリングロードなのである。路は発寒川に沿って続い

発寒川 サイクリングロード入口

川幅が変化する発寒川

発寒川の風景

ているのだが、この付近では溝なみに川幅が狭いので、左側に見えるのは生いしげる雑草だけである。

1km 過ぎるところから川幅が急に広くなるが、道は一旦ここで途絶える。右折してグリーンベルトのある道路を横断して進むと小さい川をまたぐ。安春川である。正面に見えるコンビニ前を左折して進むと、発寒川畔の途絶えたサイクリングロードが見えてくる。橋の上から振り返ると川幅の変化がよく見える。ここから茨戸方面に向かう。対岸は石狩市であるが川岸は原野で所々に林があり川面に影を落としている風景が美しい。

今回のコースの中のハイライトであろう。平日の故か、ここを走っている人は本当に少ないようだ。

4km ほど、風景に堪能しながら走る。突然、道の舗装が切れ砂利道となり、石狩街道（創成川通）に架かる蒼風橋に出る。わずかな区間だから舗装すればと思うが、放置されているのは解せない。

蒼風橋まで 28km くらいであろうか。 蒼風橋は発寒川と茨戸川の合流地点に架かっている。見晴らしのよい場所であるので、今まで走ってきた発寒川方面、石狩方面を眺め渡せる。小休止場所も近くにある。ここから、まず「あいの里」に向かう。創成川通を札幌方面に向かい、すぐのＴ字路からはじまる茨戸福移通に入る。

茨戸福移通

中央分離帯のある４車線の道路である。歩道脇は自転車も安全に走ることができる幅員があるので、ここでは車道に出る。車の交通量はそれほど多くないようだ。4km ほど進むと、あいの里の中心部に到着する。

この先は店舗はないので休憩をかねて所用を足したい。なお、進むと学園都市線を跨ぐ跨線橋がある。ここまでくると交通量も相当少なくなるが、逆に道路は立派になる。最近、拡張工事が終わったからである。やがて右手に巨大な建物が・・札幌市篠路清掃工場である。現在は休止中か。

堤防から石狩川方面を望む

そこから 7 ～ 800m 先のＴ字路を左折する。細い道だ。突き当たりは石狩川の堤防である。やがて右手にのどかそうな学校が見える。札幌市の特認小規模校の福移小中併設学校だ。天文台、家畜飼育など市内の学校とは違う学習ができるとのこと。地名の福移に興味があって調べたが、移住した福岡藩の人が、「福岡」と「移住」の頭文字を取って付けたものだとのこと。堤防に突き当たると、細いアプローチ道路があり、それにしたがって登ると堤防の上に出る。豊平川と石狩川合流

地点からすこし下った地点である。一面の草原である。対岸は石狩太美方面である。ここまで 35 ～ 6km。実はここが豊平川左岸サイクリングロード の終点なのである。堤防から斜路を下り河畔の道を進む。途中、模型飛行機を飛ばす施設がある。シーズンにはマニアが、様々にフライトを楽しんでいる。道は淡々と続き 5km ほどで雁来大橋に着く。この付近には自然観察の施設が設けられており、休憩ベンチと遊歩道がある。あとは 10km 足らずで大通に帰着できる。豊平川には市民向けに様々な施設が設けられている。このほかにもパークゴルフ場・子ども遊び場・マウンテンバイク練習場そして小休憩所など。帰路にある施設を横目に見ながら進むと、都心の建物群と橋が見えてくる。そして、遙か彼方に山並みが。夕暮れ時には夕日が橋に映えて美しい。帰りは一条大橋手前の斜路を登って帰る。走行距離は 52km より長くなるかも知れない。

バリエーションコース（創成川を下る）

蒼風橋から、すぐ創成川岸に設けられた遊歩道を行くコースがある。よく整備され、風景も美しい。残念ながら麻生手前で途切れてしまい。市街地を走ることになる。走行距離は蒼風橋から 13km。

遊覧船を浮かべてしまったが？